誕生から10年 TACパワーアップ

2017年、TACは誕生して10年目の節目を迎えました。現在、全国で1700人超の担当者が、担い手に直接出向いて要望を聴き、課題を解決するため奮闘しています。農産物の販路や労働力支援、事業承継や婚活の相談まで、担い手の多様なニーズに合わせ、活動内容も広がっています。「TACパワーアップ大会2017」が16、17日に横浜市で開かれるのに合わせ、TACのあゆみと実力、次のステップをまとめました。

TACは2008年、JAグループと担い手との距離が広がりつつある中で誕生しました。それまでは営農経済渉外などが組合員宅に出向き、JAの生産資材の購入などを提案していました。しかし地域農業の担い手のニーズが多様化するにつれ、JAグループの既存の事業では対応できない様々な要望・課題に対応するため、個別提案が必要になりました。モノを売る渉外から担い手の要望・ニーズを聴き取り、課題解決する渉外へと転換したのです。

要望・ニーズを聴き取ると言っても、初めからうまくいった訳ではありません。担い手の中にはJAへの不平・不満も少なくなく、要望を聴くにも、まずは信頼関係の構築が必要だったからです。「3年通って、ようやく要望を言ってもらえた」と話すTACもいるほどで、まさに奮闘の時期でした。その後、JA全農は先進的なJAを例に「TAC設置・活動基準」を策定。全国的な活動の底上げを図りました。

具体的には、TAC設置の目的や訪問対象、要員の他、TACミーティングによる情報共有の仕方や、訪問件数などの活動基準を定めて、業務を「見える化」したのです。このことがJA内で担い手の要望を聴き取り、解決策を提案する体制整備につながりました。当初は担い手から販路拡大などの要望が多く、TACが生産者と消費者をつなぐ「生産と販売のマッチング」での成果があがるにつれて、TACの活動の評価が高まりました。

労働力の確保、水田農業の大規模営農モデルの実証、園芸メガ団地の育成――。最近では担い手個人だけでなく地域農業全体の課題に解決策を提案するなど、TACの活動はレベルアップしています。今後はTACが専門的な知識・技術を持つ人たちと連携し担い手の経営改善をコーディネートしたり、TACが聴いた担い手に共通する課題をJAグループで事業化・仕組みづくりをし、担い手・地域と一体で課題解決する取り組みを進化させていきます。

TACの実力 2016年度末

TACを設置しているJA数 **264JA**	全国のTACの人数 **1741人**
訪問した担い手の人数 **8万903人**	担い手への面談回数 **66万2654件**

TACの足跡

黎明 2004―2007

●2004年～　営農経済渉外による出向く体制の構築を開始
- ➤2006年4月　「新生プラン農業担い手支援基本要領」策定
- ➤2007年4月　「担い手対応の基本方針」を転換
  担い手の意見聴取に基づくJAグループの事業改善・情報共有・対応力強化を目指す。
- ➤6月　JAで情報共有ミーティング（現TACミーティング）スタート
- ➤8月　担い手対応支援システム（現TACシステム）が完成し、面談内容の記録が始まる

誕生 2008

2008年4月、「地域農業の担い手に出向くJA担当者」の名称をTACに統一。モノを売る渉外から担い手の要望を聴き、課題解決する渉外へ

- ➤2008年5月　全農にTAC推進課発足/11月　第1回TACパワーアップ大会

奮闘 2009

●担い手の訪問を始めるが、当初は不平・不満・クレームばかり…。それでも、ねばり強く訪問を続けるうちに信頼を得て、要望がつかめるようになる。
- ➤2009年2月　JAグループ国産農畜産物商談会に「TACの店」出展開始

●担い手の要望・課題をつかみ、経営規模や内容に応じた個別提案を行えるようになったが、TACやJA間での活動量や対応に差があることが課題に。
- ➤2009年11月　「TAC設置・活動基準」策定→先進JAに学び活動を標準化

定着 2010―2011

●訪問活動や担い手の要望に応えるJA内の体制を整備。生産と販売のマッチングを行うなど、TACの仕組みと活動が定着し始める。
- ➤2010年9月　銀座三越にみのりカフェ&みのる食堂を開業
- ➤2011年9月　銀座三越でみのりみのるマルシェ開始
  生産者の想い、地域の産物・文化・歴史を伝えるフリーペーパー「AGRIFUTURE」発行

発展 2012―2017

担い手の要望の多様化に合わせ、活動がレベルアップ

●労働力支援や法人化支援をJAが事業化（2012年TACパワーアップ大会表彰JA）

●農業法人と一体で経営改善を行い、大規模営農モデル実証（2014年大会表彰JA）

●法人の10年運営プラン策定、園芸メガ団地を育成（2015年大会表彰JA）
- ➤2016年11月　農業法人・若手農業者と生産資材の価格低減に向け資材事業研究会を開始
- ➤2017年1月　農業経営を円滑に引き継ぐための「事業承継ブック」発行

拡大 さまざまな事業でTACが起点に

国産農産物商談会にTACの店

みのりみのるマルシェ

つくり手を訪ねるツアー

女性農業者の婚活イベント

「AGRIFUTURE」「事業承継ブック」

TACのミライ FOR FUTURE さらに進化

担い手の経営改善をコーディネート

専門的な知識・技術を持つ人たちと連携し、担い手と一緒に経営改善

部門間・組織間連携
- 営農技術：JA営農指導員 普及指導員
- 金融：担い手金融リーダー
- 共済：LA
- 補助金 交付金：行政担当者
- 販路開拓 労働力支援：全農

など

TAC ―要望・提案― 担い手

- 米づくりを省力化できる技術はないか？
- 冬の農閑期につくれる品目はないか？
- 規模を拡大したいので農地をあっせんしてほしい
- 新しい農機を導入したいので融資してほしい

JAグループで事業化・仕組みづくり

担い手に共通する地域農業の課題を、JA単独で解決することが難しい場合、JAグループ全体で対応を協議。事業化・仕組みづくりを行い、担い手・地域と一体で課題解決する。

TACが聴いた担い手に共通する課題

↓

JAグループ全体で対応を協議し解決策
- TACミーティング
- JA・連合会の部門間連携
- 担い手サポートセンター

など

→ **JAグループで事業化・仕組みづくり**
- **労働力支援**　●外国人技能実習生受入支援や農作業請負などで労働力を支援
- **事業承継**　●親から子へ農業経営・資産の引き継ぎを仲介
- **大型トラクター**　●生産者が機能を厳選した低コスト農機を開発・共同購入でコストダウン
- **化成肥料の銘柄集約**　●集約銘柄を予約して皆でコストダウン
- **農薬大型規格**　●安価な大型規格でコストダウン
- **Z-GIS（仮称）**　●地図情報をもとに効率的圃場管理
- **アピネス／アグリインフォ**　●1kmメッシュ気象情報の活用で、気象被害の回避

→ 一体で課題解決 → ［TAC］ ［地域］ 担い手